

378 ¹²³I-MIBG を用いた神経芽細胞腫に対する化学療法効果の評価

牛嶋 陽、奥山智緒、興津茂行、新居 健、岡本邦雄、杉原洋樹、前田知穂（京府医大放）
転移病巣をもつ神経芽細胞腫 10 症例（1 ヶ月～7 歳、Ⅲ期 5 例、ⅣA 期 5 例）の化学療法前後における ¹²³I-MIBG の集積の変化を検討した。撮像は 6 時間後および 24 時間後に行い視覚的に判定した。治療前は全例、原発巣および転移巣が明瞭に描出された。8 症例では、治療開始後転移巣の異常集積は漸減し早期に消失した。原発巣は全例摘出され、最長 2 年の経過観察中再発、転移は認められていない。残り 2 例のうち 1 例は治療中も集積がほとんど改善せず、他 1 例は長期の治療にもかかわらず一部集積が残存した。いずれも予後不良であった。¹²³I-MIBG は化学療法の効果判定および予後判定に有用であった。

379 神経芽細胞腫の¹²³I-MIBGシンチグラフィ

吉岡清郎、佐藤多智雄、福田 寛（東北大加齢研）
神経芽細胞腫マスキリング陽性18症例に、¹²³I-MIBGシンチグラフィを施行し、その診断感度及び有用性を検討した。検査後の手術などで全例神経芽細胞腫の確定診断がなされており、全18例で原発巣の陽性集積を認めた。1例のみ含まれたStage IV_s症例では、検査前把握されていなかった転移巣の陽性描画も認めた。腫瘍部陽性集積の集積強度は一定ではなく、腫瘍サイズのみによる変化ではなかった。またStage IIIで術前化学療法が施行された症例で、臨床経過は明らかな軽快を示しているにも拘わらず、MIBG集積が化療前に比べ化療後に有意に強くなった症例を経験した。腫瘍部位によっては、MIBG検査をスクリーニングに続き使用する有用性が考えられ、腫瘍の集積強度の相違が貴重な臨床情報を表している可能性が示唆された。

380 神経芽腫無治療経過観察例における

¹²³I-MIBG の有用性；腫瘍生物学的診断の可能性
竹内真帆、相田典子、伊勢俊秀（神奈川こども医療セ放）
池上 匡、松原 升（横浜市大放）
無治療経過観察を行った神経芽腫12例に¹²³I-MIBG 検査（MIBG）を施行し、12例全例で腫瘍部位に集積を認めた。経過観察中に6例で2回以上 MIBG を行ったが、5例で臨床経過または手術による病理所見とRI集積の増減とが一致した。次に正常対照部位との比を求めてRI集積を半定量化した4例のうち、2例では増加し2例で減少した。この定量値の増減と病理所見とを比較し得た3例では、その結果が一致したが、部分容積効果の影響を除くために、MR画像での体積変化率と比較するとより正確に腫瘍の性状を反映しているとは言えない症例もあった。MIBGの半定量化は腫瘍生物学的な意味を持つ可能性が示唆されたが、今後、症例数を増やして検討する必要がある。

381 悪性リンパ腫の腹部病変におけるGa-67

SPECTによる再検討
堀 安裕子(徳島大・放)、横山 邦彦、絹谷 清剛、小西 章太、道岸 隆敏、利波 紀久(金沢大・核)
Gaシンチグラフィは悪性リンパ腫のstage分類や経過観察に有用であるが、腹部病変に関してはplanar像では検出率が低いとされている。今回SPECTを併用することで診断情報が付加されるか否かをCTと比較検討した。対象は腹部SPECTが施行された344検査中ほぼ同時期にCTが行われた206検査、158症例とした。結果はCTとの一致率は87.3%であった。両者が一致しなかった症例の中にはGaによって正診が得られた場合もあり、CTとは異なる機能情報をGaが付加し得ると考えられた。腹部病変のある症例についての治療効果の判定および予後予測、再発の有無の診断には、Ga-SPECTを積極的に併用することにより診断能が向上することが予想された。

382 AIDS患者における⁶⁷Gaシンチグラフィの有用性

鎌田憲子 鈴木謙三 寺田一志 野上修二（都立駒込放）
1995年5月から1997年3月までに当院で加療されたAIDS患者のうち、日和見感染症の focusの検索の目的、あるいは悪性リンパ腫が疑われて、⁶⁷Gaシンチグラフィの行われた57症例、101検査について検討した。AIDS患者に合併する悪性リンパ腫は節外性のものが多く、その病変の存在や広がりなどを知るうえで有用であった。日和見感染症では、カリニ肺炎と非定型抗酸菌感染症（MAC）の診断が重要であるが、カリニ肺炎ではきわめて早期に病変がdetectできることや治療効果の判定に有用と考えられた。非定型抗酸菌感染症では縦隔や腹部リンパ節腫大が見られることが多く、悪性リンパ腫との鑑別が治療上問題となるが、リンパ腫と比べると集積の程度が少ない傾向にあった。

383 Tc-99m MIBIシンチグラフィを用いた悪性リンパ腫の検討（Gaシンチグラフィとの比較）

渡辺直人、清水正司、富澤岳人、豊島心一郎、蔭山昌成、瀬戸 光（富山医大 放）
Tc-99m MIBIシンチグラフィは、様々な悪性腫瘍の検出に有用であるとすでに多く報告されている。そこで我々は、悪性リンパ腫にTc-99m MIBIシンチグラフィを用いて、腫瘍集積性の評価をGaシンチグラフィと比較することで試みた。対象は悪性リンパ腫15名である。患者には同時期にTc-99m MIBIシンチグラフィ及びGaシンチグラフィを施行した。結果、腫瘍検出についてはMIBIが優れていた～若干優れていたのは、5症例であった。Gaが優れていたのは、5症例であった。両方がほぼ同等だったのは、5症例であった。MIBIシンチグラフィは、Gaシンチグラフィに比較しても悪性リンパ腫の検出には補完的に有用であることが示唆された。